

## 国立環境研究所の令和3年度評価結果の反映状況

### 1. 役員人事への反映について

- ・環境大臣による令和3年度評価結果において、役員の異動につながるような評価はなかったことから、評価結果を踏まえた役員の異動は行わなかった。

### 2. 役員報酬等への反映について

- ・環境大臣の研究所に対する令和3年度業績評価はA評価であったため、令和4年度に在職する役員の業績手当についても、3段階評価の上位の評価とした。

### 3. 運営・予算への反映について

3年度評価における 主な指摘事項	反映状況
第5期中長期目標・計画の初年度であり、次年度以降も中長期目標・計画に基づいた研究体制の下でも、「研究開発成果の最大化」が一層図られるよう、個別分野を超えた連携による統合的な研究や基礎・基盤的取組の推進、研究開発成果の社会実装・社会貢献を推進するための連携支援機能の強化等を着実に実施していただきたい。	戦略的研究プログラム、二大事業をはじめとして、先見的・先端的な基礎研究、政策対応研究、知的研究基盤整備を含め全般的に外部研究評価委員会において高い評価結果を得ました。これらの枠を超えた連携を図るとともに、国内外の様々な研究機関と共同研究・協力協定を締結し進め、社会実装・社会貢献の推進を図る等、研究開発成果の最大化を進めています。
野生生物感染症に関するモニタリング手法高度化などについては、人獣共通感染症、高危険度ウイルス感染症なども考慮し、ヒトへの影響も予測できるシステムとして社会実装できることを期待します。	感染症対策においては、人獣共通感染症関連の機関との連携を強化し、ヒトへの影響予測への発展も考慮しつつ検討を進めています。
太陽光発電施設による土地改変と生物多様性、生態系サービスの維持は、今後益々重要になるテーマであり、進展を期待したい。	引き続き気候危機対応イニシアティブでの所内連携により研究を進めるとともに、環境省環境研究総合推進費課題「生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究」においても検討を行い、環境省とも緊密に連携をとって進めました。
引き続き適切な予算の執行・管理体制の維持に努められたい。	引き続き、財務会計システムによるリアルタイムな予算管理を行うとともに、定期的に予算執行状況の確認を行

	<p>い、理事会への報告を行いました。</p> <p>また、調達等合理化計画に基づく取組を適切に実施しました。特に、一者応札・応募の低減に向けた取組として、公告期間の延長に加え、令和4年度は以下の取組を行い、一者応札の改善や応札機会の拡大を図るとともに、特例随意契約の件数の増加により、競争性及び透明性を確保しつつ、昨年度以上に研究開発の促進や所内全体の事務効率化にも寄与しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子入札システム適用比率の大幅な上昇</li> <li>・調達情報サイトの関係団体との相互リンク</li> <li>・事業者の履行準備期間確保を含む事業者の適正な履行期間の設定</li> <li>・履行が見込まれる者への公告情報の案内</li> </ul>
<p>施設・設備の整備及び管理運用については、老朽化対策も含めて適切に実施されたい。</p>	<p>施設管理・整備（建築・機械）の経験を有する者として二名を中途採用し、体制の強化を図りました。建物の老朽化に関しては動物実験2棟老朽化施設他更新工事、特別高圧受変電施設老朽化緊急対策整備工事に着工しました。また令和4年度補正予算による中央監視制御システム刷新省エネ化整備工事に着手しました。</p>